

通し番号	記入不要
------	------

分類番号	24-72-21-01
------	-------------

(成果情報名) ホームユーステストによる飼料米卵に対する消費者の嗜好	
[要約] 飼料米卵についてアンケート調査、官能評価を実施し、アンケート調査結果からパネルを鶏卵にこだわりのある「関心層」とこだわりのない「無関心層」に分類した。官能評価の結果から、「関心層」では、飼料米卵の嗜好性が高く、飼料米卵の購買意向が高いことから有望な購買層になりうることが示唆された。	
(実施機関・部名) 農業技術センター畜産技術所	連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

飼料用米の採卵鶏への給与は、配合飼料中のトウモロコシと代替することが可能であるが、卵黄色が薄くなる。そこで、飼料用米を給与した採卵鶏から生産された卵（飼料米卵）について、家庭で調理、試食して評価してもらうホームユーステストを実施し、飼料米卵に対する消費者の嗜好を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 パネルは、家庭で主に食材を購入、調理する女性 31 名、男性 2 名とし、家庭で飼料米卵（6 個）を評価してもらった。
- 2 評価方法は、アンケート調査（鶏卵の品質、表示情報 14 項目の重視度（表 1））、試食後の購買意向の有無、購買上限価格）と官能評価により調理前の卵黄色と調理後の卵黄色、食味（味覚、食感）、全体について、好き（+2）から嫌い（-2）の 5 段階採点法により評価してもらった。
- 3 鶏卵の品質、表示情報の重視度を因子分析し「飼養方法」「卵質・味覚」「特殊卵」の 3 因子にまとめられ（表 1）、さらにパネルの因子得点をクラスター解析し、「関心層」（n=20）、「無関心層」（n=13）に分類した（表 2）。
- 4 官能評価では、調理前の卵黄色の嗜好性は、マイナス評価であったが、層間の比較では関心層が有意に高かった（図 1  $p < 0.10$ ）。
- 5 試食後は、食味（味覚、食感）、全体の評価とも、プラス評価となり層間で有意差は認められなかった（図 1）。
- 6 飼料米卵を購入してみたい理由で一番多かった回答は「国産米をエサに利用しているから安心」で、逆に購入したくない理由は「黄身の色がおいしそうに感じない」であった（図 2）。
- 7 購買意向の割合、購買上限価格とも関心層で高く（表 3）、有望な購買層になる。

[成果の活用面・留意点]

消費者を類型化することにより、飼料米卵に対する購買層が明確になる。

[具体的データ]

表 1 鶏卵の品質、表示情報の因子分析結果

項 目	因子負荷量		
	第1因子 飼養方法	第2因子 卵質・味覚	第3因子 特殊卵
13. 給与飼料が表示されている	<b>0.95</b>	-0.07	0.15
12. 平飼い（放し飼い）である	<b>0.91</b>	0.07	0.03
9. 白身の盛上がりが高い	<b>0.68</b>	0.39	-0.34
14. 生産者名が表示されている	<b>0.62</b>	-0.22	0.32
11. 有精卵である	<b>0.47</b>	-0.17	-0.09
7. 黄身が濃厚である	-0.18	<b>0.80</b>	0.12
6. 黄身の盛上がりが高い	0.25	<b>0.79</b>	-0.07
5. うま味がある	0.00	<b>0.58</b>	0.02
8. 黄身が大きい	-0.20	<b>0.57</b>	0.11
2. ビタミン・ミネラル強化	0.17	0.02	<b>0.66</b>
1. 赤玉である	-0.07	0.15	<b>0.58</b>
3. 臭みがない	0.19	0.41	0.39
10. 卵黄色が濃い（オレンジ	-0.44	0.41	0.05
4. コクがある	0.02	0.16	0.07

因子抽出法：プロマックス回転 最尤法

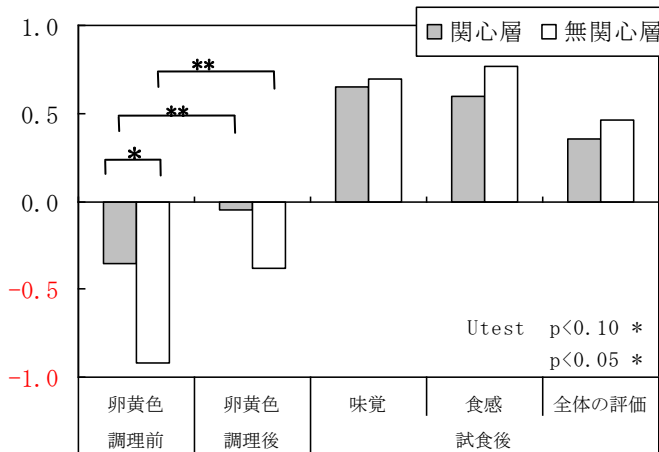


図 1 飼料米卵の官能評価結果

表 2 因子得点によるパネルの分類

		関心層	無関心層
因子名	飼養方法	+	-
	卵質・味覚	+	-
	特殊卵	+	-
N数		20名	13名
平均年齢		49.3歳	47.6歳
鶏卵購買先割合	スーパー	61.5%	83.1%
	生協	9.5%	0.0%
	農産物直売所	2.5%	1.5%
	宅配	12.5%	0.0%
	その他	14.0%	15.4%

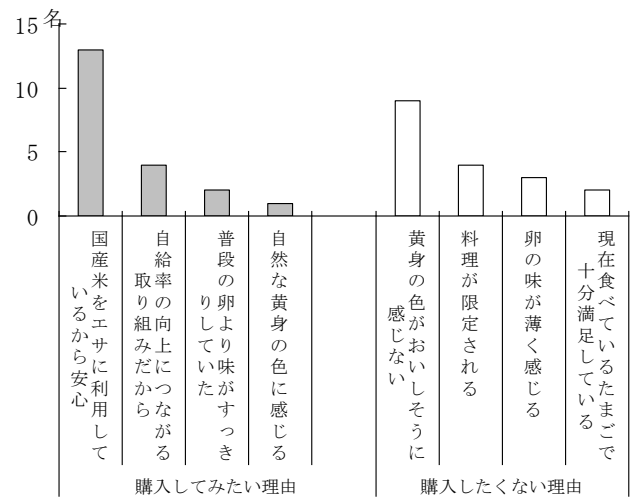


図 2 飼料米卵の購入意向理由

表 3 飼料米卵の購入意向と購買上限価格

	関心層	無関心層
飼料米卵購買意向者数	13名 (65.0%)	4名 (30.8%)
飼料米卵購買上限価格	¥253	¥193

[資料名] 平成 24 年度試験研究成績書

[研究課題名] マーケティング調査手法を用いた県内消費者の畜産物ニーズに関する研究

[研究期間] 平成 24 年度

[研究者担当名] 引地宏二、平原敏史